



# KV7 シリーズ

## (KV7, KV7-V)

---

*AMD Athlon<sup>TM</sup> XP* システムボード  
*Socket 462*

ユーザーマニュアル

---

## 著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

---

# 目 次

---

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに .....</b>	<b>1-1</b>
1-1.	機能と仕様.....	1-1
1-2.	レイアウト (KV7) .....	1-3
1-3.	レイアウト (KV7-V).....	1-4
<b>第 2 章</b>	<b>ハードウェアのセットアップ.....</b>	<b>2-1</b>
2-1.	マザーボードのインストール.....	2-1
2-2.	CPU およびヒートシンクの取付け .....	2-1
2-3.	システムメモリの取付け.....	2-3
2-4.	コネクタ、ヘッダ、スイッチ.....	2-4
(1).	ATX 電源入力コネクタ .....	2-4
(2).	FAN コネクタ .....	2-5
(3).	CMOS メモリクリアリングヘッダ .....	2-6
(4).	S2K モード選択ヘッダ (KV7).....	2-7
(5).	ウェークアップヘッダ .....	2-8
(6).	前面パネルのスイッチとインジケータ接続.....	2-9
(7).	追加 USB ポートヘッダ .....	2-10
(8).	前面パネルのオーディオ接続ヘッダ.....	2-11
(9).	内部オーディオコネクタ .....	2-13
(10).	加速式グラフィックスポートスロット.....	2-13
(11).	フロッピーディスクドライブコネクタ .....	2-14
(12).	IDE コネクタ .....	2-15
(13).	シリアル ATA コネクタ .....	2-16
(14).	背面パネルの接続.....	2-17
<b>第 3 章</b>	<b>BIOS について .....</b>	<b>3-1</b>
3-1.	SoftMenu Setup.....	3-2
3-2.	Standard CMOS Features.....	3-4
3-3.	Advanced BIOS Features.....	3-7
3-4.	Advanced Chipset Features.....	3-10
3-5.	Integrated Peripherals .....	3-16
3-6.	Power Management Setup .....	3-20

---

---

3-7.	PnP/PCI Configurations.....	3-24
3-8.	PC Health Status .....	3-26
3-9.	Load Fail-Safe Defaults .....	3-27
3-10.	Load Optimized Defaults .....	3-27
3-11.	Set Password .....	3-27
3-12.	Save & Exit Setup .....	3-27
3-13.	Exit Without Saving.....	3-27
付録 A.	VIA 4-in-1 ドライバのインストール.....	A-1
付録 B.	オーディオドライバのインストール.....	B-1
付録 C.	LAN ドライバのインストール.....	C-1
付録 D.	VIA USB 2.0 ドライバのインストール.....	D-1
付録 E.	シリアルATA RAID ドライバのインストール.....	E-1
付録 F.	ABIT EQ (Hardware Doctor ユーティリティ) .....	F-1
付録 G.	FlashMenu (BIOS 更新ユーティリティ) .....	G-1
付録 H.	トラブルシューティング.....	H-1
付録 I.	テクニカルサポートの受け方について.....	I-1

---

# 第 1 章 はじめに

---

## 1-1. 機能と仕様

---

### 1. CPU

- AMD Athlon XP/Sempron Socket 462, 266/333/400MHz FSB プロセッサをサポート

### 2. チップセット (VIA KT600 と VT8237)

- 高速ユニバーサルシリアルバス (USB 2.0) をサポート
- 電力制御インターフェイス (Advanced Configuration and Power Interface) (ACPI) をサポート
- 加速式グラフィックスポート (Accelerated Graphics Port) コネクタが AGP 4X/8X (1.5V/0.8V) モードの (側波帯) デバイスをサポート (AGP 3.0 Compliant)

### 3. メモリ

- 3 つの 184-ピン DIMM ソケット
- 2 つの DIMM バッファなし DDR 333/400 をサポート (最大 2GB)
- 3 つの DIMM バッファなし DDR 266 をサポート (最大 3GB)

### 4. ABIT 開発元

- ABIT SoftMenu™ テクノロジー
- ABIT FanEQ™ テクノロジー
- ABIT EQ™ テクノロジー
- ABIT Audio EQ™ テクノロジー
- ABIT FlashMenu™ テクノロジー

### 5. シリアル ATA 150 RAID

- サウスブリッジを介して RAID 機能 (0/1) を使用する 2 チャンネルのシリアル ATA 150MB/秒のデータ転送速度

### 6. LAN

- オンボード 10/100M PCI ファーストイーサネットコントローラ

### 7. オーディオ

- オンボードの 6 チャンネル AC 97 CODEC
- プロ仕様のデジタルオーディオインターフェイスが自動 Jack-Sensing と光学 S/PDIF 出力をサポート

### 8. 内部 I/O コネクタ

- 1x AGP スロット
- 5x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート

- 2x Ultra ATA 133/100/66/33 コネクタ
- 2x シリアル ATA 150 コネクタ
- 2x USB 2.0 ヘッダ
- 1x CD-IN、1x AUX-IN ヘッダ

## 9. 背面パネル I/O

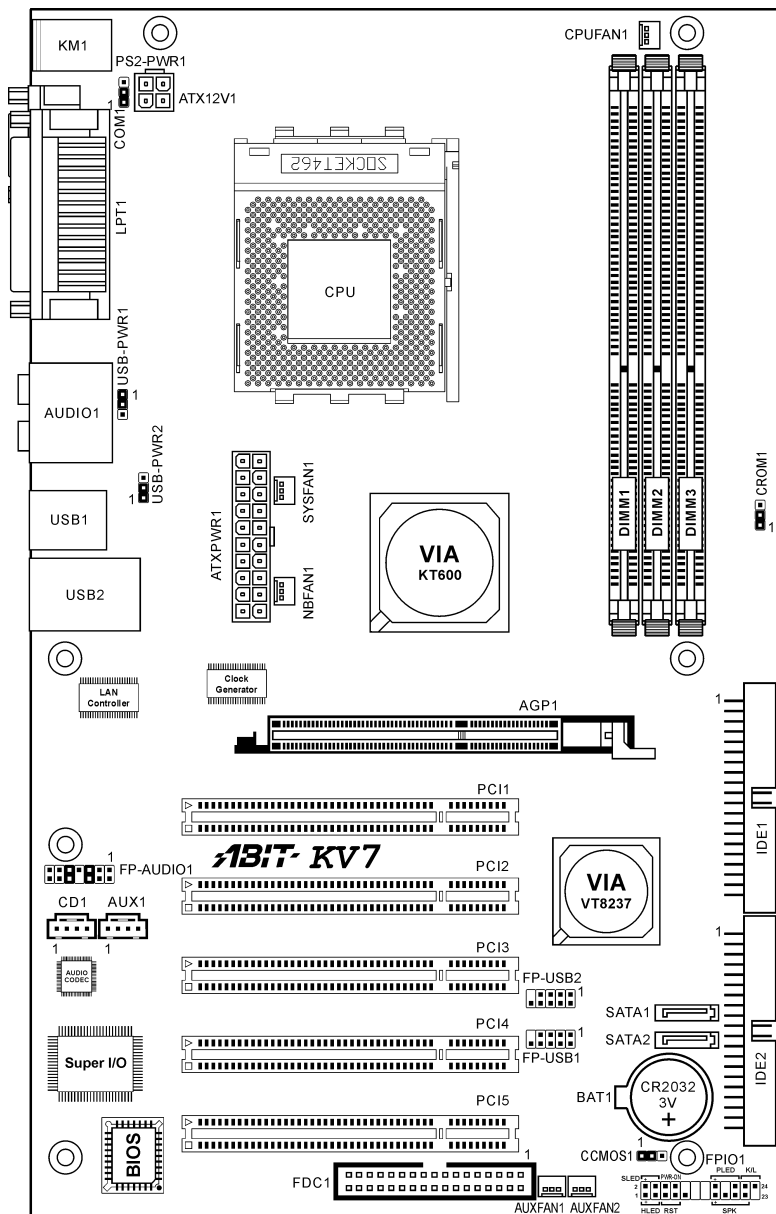
- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- 1x シリアルポートコネクタ, 1x パラレルポートコネクタ
- 1x AUDIO1 コネクタ (リアレフト / リアライト、センター/サブウーファ、S/PDIF アウトコネクタ、マイクイン、ラインイン、フロントレフト/フロントライト(KV7))
- 1x AUDIO2 コネクタ (マイクイン、ラインイン、ラインアウト(KV7-V))
- 4x USB 2.0、1x RJ-45 LAN コネクタ

## 10. その他

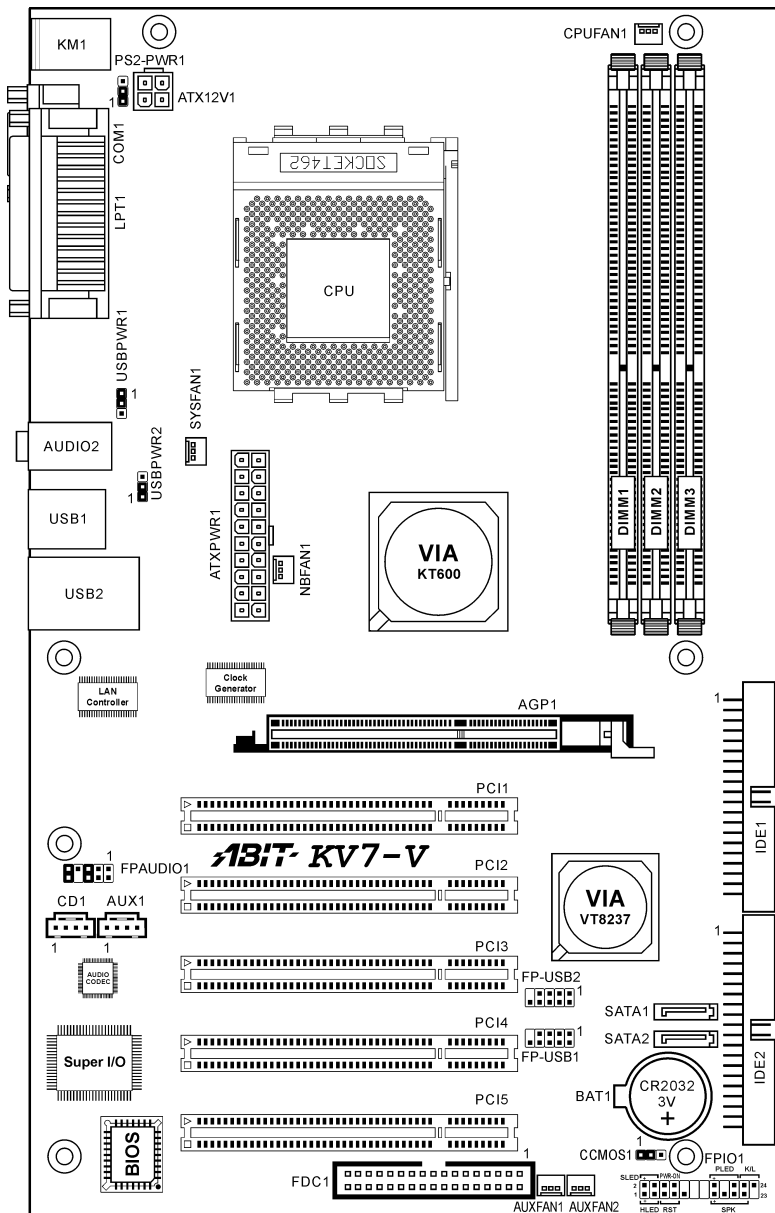
- ATX フォームファクタ (305x195mm)

※ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

## 1-2. レイアウト (KV7)



## 1-3. レイアウト (KV7-V)





## 第2章 ハードウェアのセットアップ

**取付けを開始する前に：**ATX12V の電源装置のスイッチをオフにする(+5V スタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

### 2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の2つの方法があります。

1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する

原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたなら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終わったら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

**注意：**PCB サークットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサがすでにシャーシ台にしっかりと取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサを取り外してください。

### 2-2. CPU およびヒートシンクの取付け

#### 注意

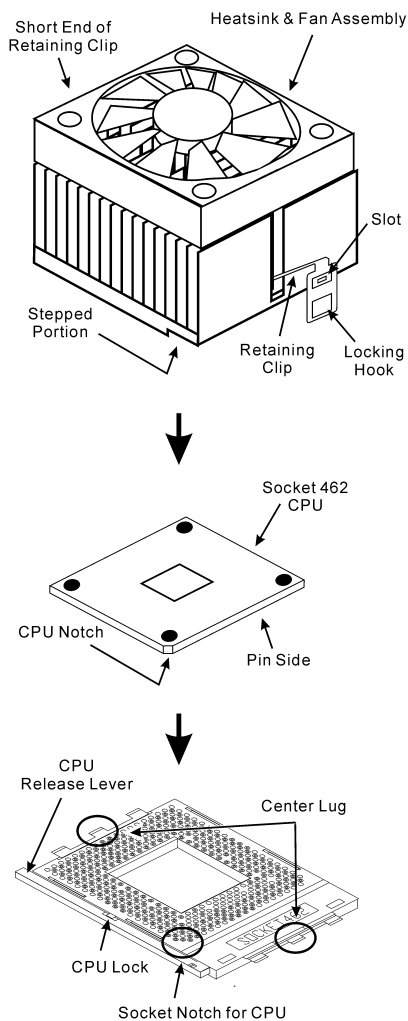
- プロセッサから熱を放散させるために、ヒートシンクと冷却ファンの取り付けが必要となります。これらのアイテムを取り付けないと、プロセッサが加熱して故障する原因となります。
- AMD Socket A プロセッサは操作中にかなりの熱を発生するため、このプロセッサ用に特別に設計された大型のヒートシンクを使用する必要があります。さもなければ、加熱して、プロセッサが破損する可能性があります。

- プロセッサファンとその電源ケーブルが正しく取り付けられていない場合、ATX 電源ケーブルをマザーボードに絶対に接続しないでください。これで、プロセッサの破損を防ぐことができます。
- 取り付けの支持に関する詳細情報は、プロセッサの取り付けマニュアル、またはプロセッサに付属するその他のドキュメントをご覧ください。

このマザーボードは ZIF（ゼロインサージョンフォース）Socket 462 を提供して AMD Socket A CPU をインストールします。お買い上げになった CPU には、ヒートシンクと冷却ファンのキットが付属しています。付属していない場合、Socket A 向けに特別に設計されたキットをお求めください。

ここに示した図を参照して、CPU とヒートシンクを取り付けます（この図は参照専用です。お使いのヒートシンクとファンアセンブリはこの図と異なっていることがあります）。

1. このマザーボードの Socket 462 を探します。CPU のリリースレバーを横に引っ張って掛け金を外し、上まで引き上げます。
2. CPU のノッチを CPU のソケットのノッチに合わせます。そのピンの横側を下にして CPU のソケットに差し込みます。CPU に差し込むときに無理な力を入れないでください。ピンは一方向にだけフィットするようになっています。CPU のリリースレバーを閉じます。
3. ヒートシンクのプラスチックフィルム接着剤をはがします。ヒートシンクの段のある部分が“Socket 462”の文字のある側を向いていることを確認してください。ヒートシンクの面を下にして、プロセッサを完全に覆うまで降ろします。
4. まず支持クリップの短い方の端を押し下げて、ソケット下部のセンターラグに固定します。
5. ネジ回しを使用して、支持クリップの長い方の端のスロットに差し込みます。クリップを押し下げて、ソケット上部のセンターラグに固定します。これで、ヒートシンクとファンアセンブリが CPU のソケットにしっかり取り付けられました。
6. ヒートシンクとファンアセンブリのファンコネクタを、マザーボードのファンコネクタに取り付けます。



**注意:** プロセッサに対して、正しいバス周波数とマルチプルに設定することを忘れないでください。

## 2-3. システムメモリの取付け

このマザーボードにはメモリ拡張用に 3 つの 184 ピン DDR DIMM サイトが搭載されており、128MB から最大 3GB まで拡張することができます。

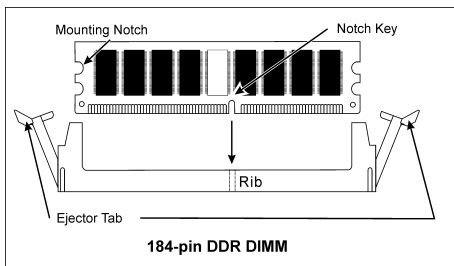
表 2-1. メモリ設定の例

バンク	メモリモジュール	合計
Bank 0, 1 (DIMM1)	128, 256, 512MB, 1GB	128MB ~ 1GB
Bank 2, 3 (DIMM2)	128, 256, 512MB, 1GB	128MB ~ 1GB
Bank 4, 5 (DIMM3)	128, 256, 512MB, 1GB	128MB ~ 1GB
バッファなし DDR 266 DIMM 用の総システムメモリ		128MB ~ 3GB
バッファなし DDR 333/400 DIMM 用の総システムメモリ		128MB ~ 2GB

**注意:** メモリスロット DIMM1 から少なくとも 1 つの DIMM モジュールを取り付ける必要があります。

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにして AC 電源コードを抜いてください。

1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリブに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかり押すと、スロットの両側のイジェクタタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの 2 つのイジェクタタブを同時に外側に押してから、DIMM モジュールを取り出します。



**注意:** 静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

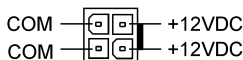
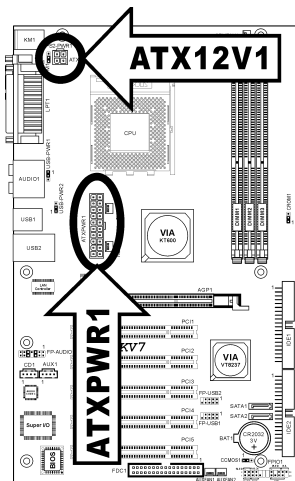
## 2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

ここには、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第1章に示します。

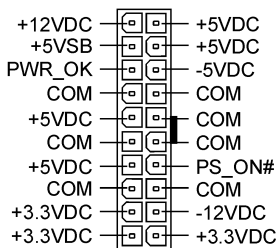
**警告:** 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、ACアダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC電源コードのプラグを差し込んでください。

### (1). ATX 電源入力コネクタ

このマザーボードには2つの電源コネクタが搭載されており、少なくとも 300W、20A +5VDC または 720mA +5VSB の容量を持つ ATX12V 電源装置に接続します。



ATX12V1



ATXPWR1

## (2). FAN コネクタ

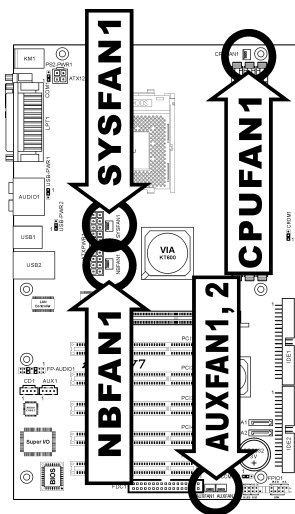
これらの 3 ピンコネクタはそれぞれ、システムに取り付けられたクーリングファンに電源を供給します。

CPU は、ヒートシンクを装備した強力なファンにより冷却される必要があります。システムは、CPU ファンの速度を監視することができます。

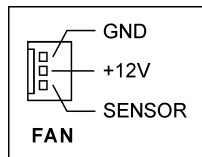
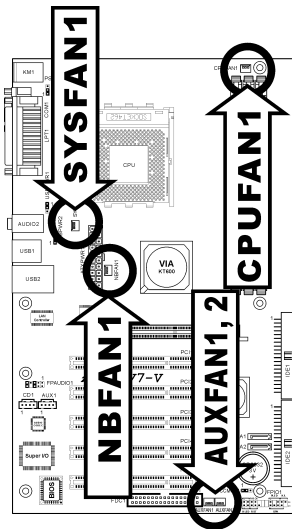
- CPUFAN1 : CPU ファン
- NBFAN1 : チップセットファン
- SYSFAN1 : システムファン
- AUXFAN1, AUXFAN2 : 補助ファン

**警告:** これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。

KV7:



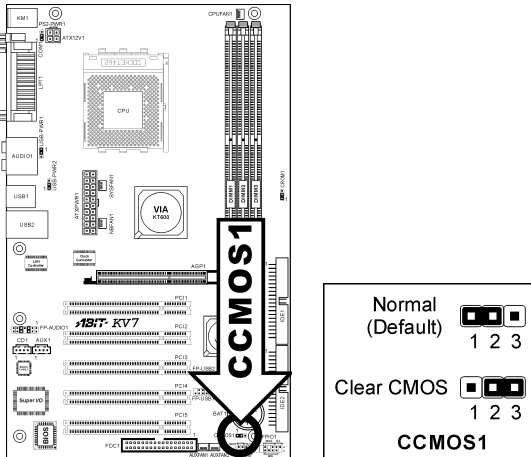
KV7-V:



### (3). CMOS メモリクリアリングヘッド

この CCMOS1 ヘッドはジャンパキャップを使用して、CMOS メモリを消去します。

- ピン 1-2 ショート（デフォルト）：標準操作。
- ピン 2-3 ショート：CMOS メモリの消去。



**警告：**CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

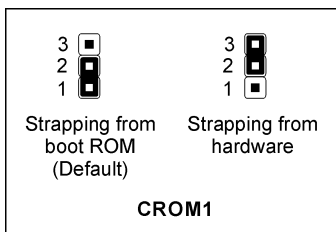
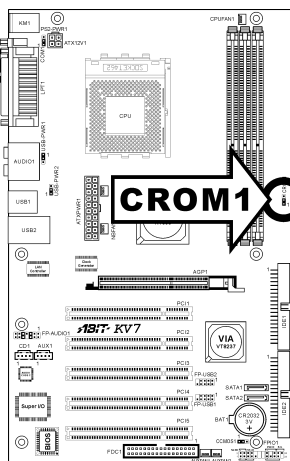
#### (4). S2K モード選択ヘッダ (KV7)

このヘッダはジャンパを使用して、S2K モードを選択します。

“ハードウェアからストラッピングする”ための短いピン 2 およびピン 3 により、CPU ハードウェアは S2K バスのタイミングを制御してシステムの柔軟性を高めることができます。

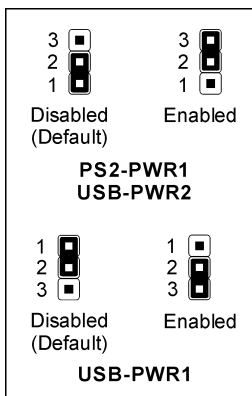
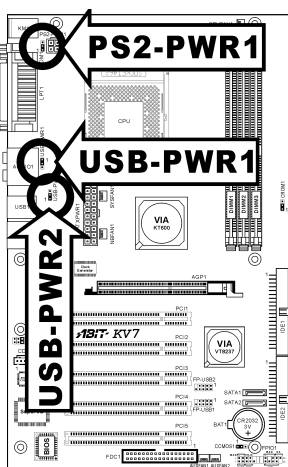
デフォルトの設定は“**起動 ROM からストラップする**”ための短いピン 2 とピン 2 で、内部の起動 ROM が S2K バスのタイミングを制御できるようにしています。BIOS メニューの“**CPU フェーストコマンドデコード**” オプションは、それに応じて有効にされます。

#### KV7:



## (5). ウェークアップヘッダ

- PS2-PWR1:**  
 ピン 1-2 ショート（デフォルト）：キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを無効にします。  
 ピン 2-3 ショート：キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを有効にします。
- USB-PWR1 :**  
 ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB1 ポートでのウェークアップ機能が無効にします。  
 ピン 2-3 ショート：USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。
- USB-PWR2:**  
 ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB2 ポートでのウェークアップ機能が無効にします。  
 ピン 2-3 ショート：USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

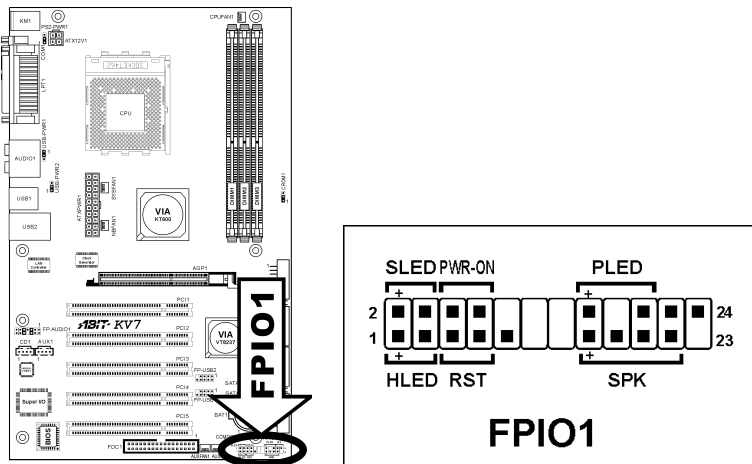




## (6). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続

このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

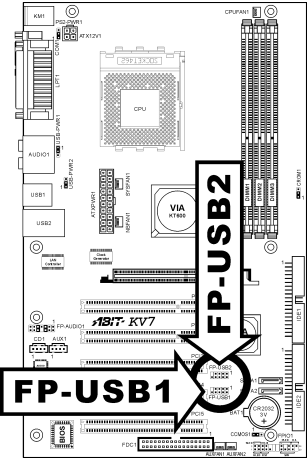
電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことで、スイッチの間違いはシステムの故障の原因となることがあります。



- **HLED (ピン 1、3) :**  
シャーシ前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST (ピン 5、7) :**  
シャーシ前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPK (ピン 15、17、19、21) :**  
シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED (ピン 2、4) :**  
シャーシ前面パネルのサスペンド LED ケーブル (もしあれば) に接続します。
- **PWR-ON (ピン 6、8) :**  
シャーシフロントパネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED (ピン 16、18、20) :**  
シャーシフロントパネルの電源 LED ケーブルに接続します。

(7). 追加 USB ポートヘッダ

これらのヘッダはそれぞれ、USB 2.0 仕様に対して設計された USB ケーブルを通して、2 つの追加 USB 2.0 ポート接続を提供します。



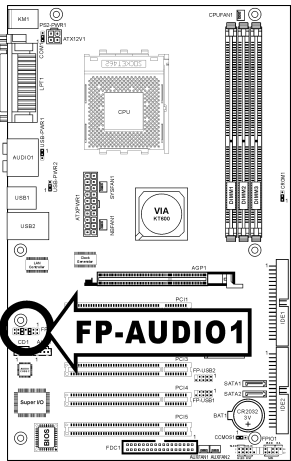
<div><div>7 5 3 1</div><div><div><div></div><div></div><div></div><div></div></div><div><div></div><div></div><div></div><div></div></div></div><div>10 8 6 4 2</div><div>FP-USB2</div><div>FP-USB1</div></div>	ピン	割り当て	ピン	割り当て
	1	VCC	2	VCC
	3	Data0 -	4	Data1 -
	5	Data0 +	6	Data1 +
	7	アース	8	アース
	9	NC	10	NC

(8). 前面パネルのオーディオ接続ヘッダ

このヘッダは、フロントパネルでのオーディオコネクタに接続を提供します。

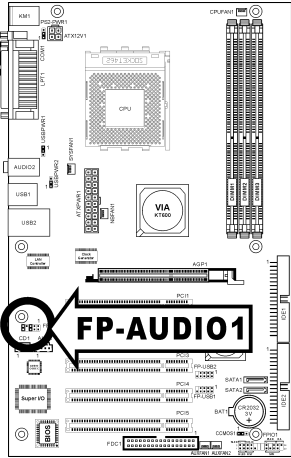
- 前面パネルでオーディオコネクタを使用するには、このヘッダのすべてのジャンプを取り外し、シャーシに付属する延長ケーブルで前面パネルに接続します。
- 背面パネルでオーディオコネクタを使用するには、延長ケーブルを抜き、ピン 5-6、およびピン 9-10 のジャンプを元に戻します（デフォルト設定）。

KV7:



<div><div>13 11 9 7 5 3 1</div><div>14 12 10 6 4 2</div><div>FP-AUDIO1</div></div>	ピン	割り当て	ピン	割り当て
	1	オーディオ Mic.	2	アース
	3	オーディオ Mic. バイアス	4	VCC
	5	スピーカーアウトの右チャンネル	6	スピーカーアウトの右チャンネルリターン
	7	X	8	NC
	9	スピーカーアウトの左チャンネル	10	スピーカーアウトの左チャンネルリターン
	11	アース	12	S/PDIF イン
	13	VCC	14	S/PDIF アウト

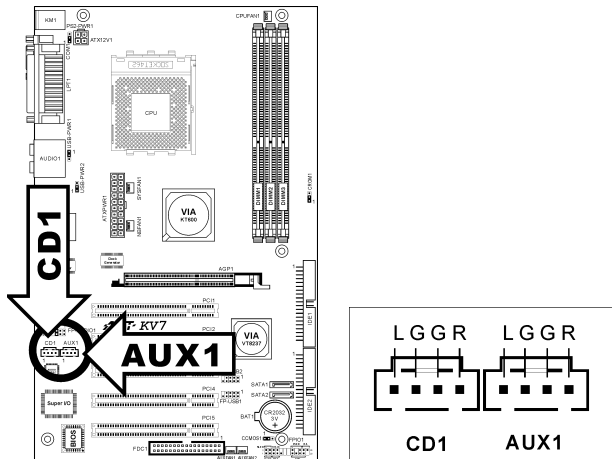
KV7-V:



	ピン	割り当て	ピン	割り当て
	1	オーディオ Mic.	2	アース
	3	オーディオ Mic. バイアス	4	VCC
	5	スピーカーアウトの右チャンネル	6	スピーカーアウトの右チャンネルリターン
	7	X	8	NC
	9	スピーカーアウトの左チャンネル	10	スピーカーアウトの左チャンネルリターン

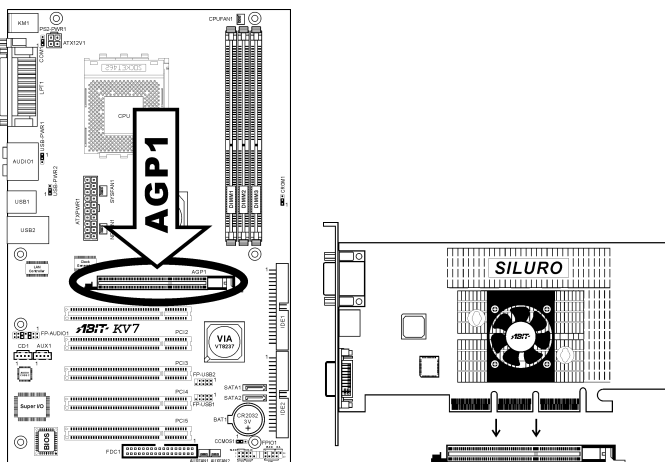
### (9). 内部オーディオコネクタ

これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続します。



### (10). 加速式グラフィックスポートスロット

このスロットは、AGP 8X までオプションの AGP グラフィックスカードをサポートします。グラフィックスカードの詳細については、当社の Web サイトを参照してください。



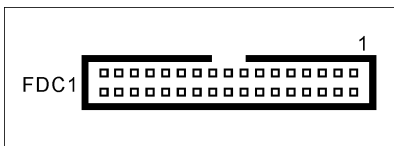
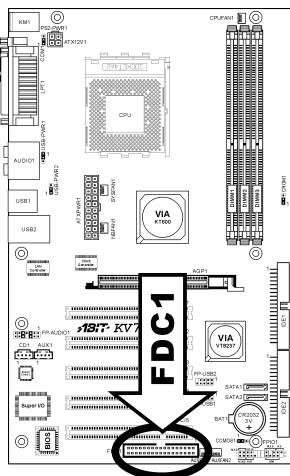
**注意：**このマザーボードは 3.3V AGP カードをサポートしません。1.5V または 0.8V AGP カードのみをご使用下さい。

### (11). フロッピーディスクドライブコネクタ

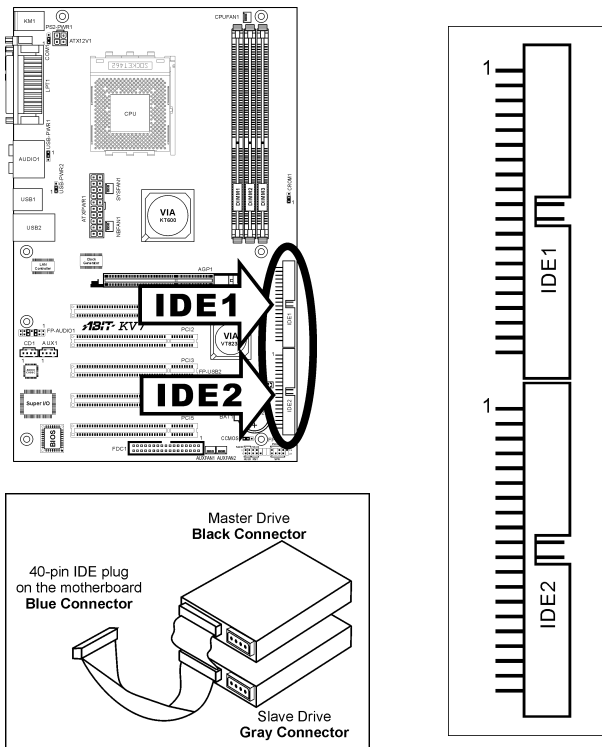
このコネクタは 34 ピン、34 コンダクタリボンケーブルを介して、2 つの標準フロッピーディスクドライブをサポートします。

フロッピーディスクドライブのケーブルに接続するには、次の手順を実行します。

1. リボンケーブルの一方の端を FDC1 コネクタに取り付けます。リボンケーブルの着色された端を FDC1 コネクタのピン 1 に合わせます。
2. リボンケーブルのもう一方の端をディスクドライブのコネクタに接続します。リボンケーブルの着色された端もディスクドライブコネクタのピン 1 に合わせます。末端のコネクタを、ドライブ A として指定されたドライブに接続します。



## (12). IDE コネクタ



このマザーボードは2つのIDEポートを提供して、Ultra ATA 66 リボンケーブルにより、Ultra ATA 100 モードで最大4基のIDEドライブに接続します。各ケーブルは40ピン80コンダクタと3つのコネクタを備え、マザーボードに2基のハードドライブを接続できるようになっています。長い方のリボンケーブルの1本の端(青いコネクタ)をマザーボードのIDEポートに接続し、短い方のリボンケーブルのほかの2本の端(グレーおよび黒のコネクタ)をハードドライブのコネクタに接続します。

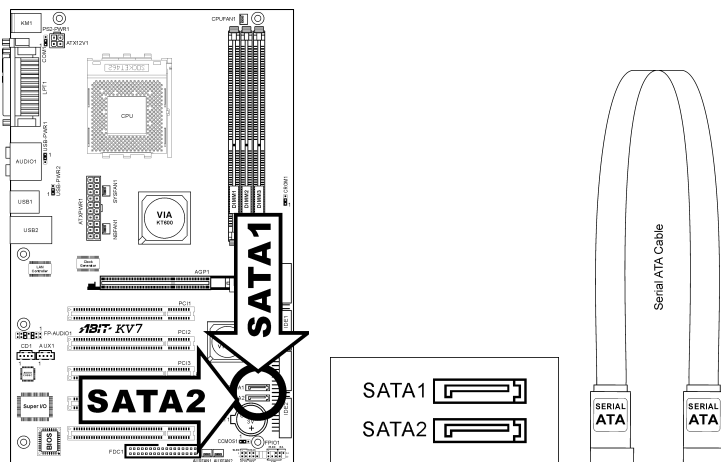
2台のハードドライブを1つのIDEチャンネルを通して一緒に接続するには、最初のドライブをマスタに構成してから2番目のドライブをスレーブモードに構成する必要があります。ジャンパ設定については、ドライブのマニュアルを参照してください。IDE1に接続された最初のドライブは通常「プライマリマスタ」と呼ばれ、2番目のドライブは「プライマリスレーブ」と呼ばれます。IDE2に接続された最初のドライブは「セカンダリマスタ」と呼ばれ、2番目のドライブは「セカンダリスレーブ」と呼ばれます。

CD-ROMのような従来の速度の遅いドライブを同じIDEチャンネルに接続すると、システム全体の性能が落ちることになるので、避けてください。

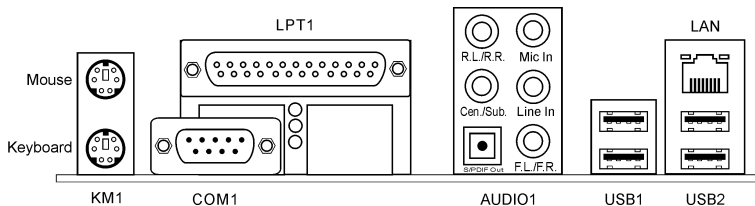
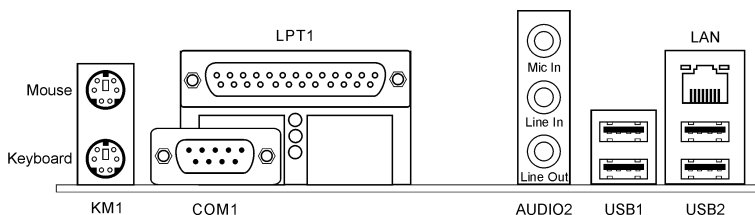
### (13). シリアル ATA コネクタ

これらのコネクタは、Serial ATA ケーブル経由で各チャンネル毎に 1 つの Serial ATA デバイスを接続するために用意されています。ソフトウェア構成によって RAID 0 または RAID 1 のアレイも利用できます。

SATA1 および SATA2 のコントローラを有効にするには、「OnChip IDE デバイス」の BIOS メニューで「OnChip SATA デバイス」を有効 (初期設定) にしておく必要があります。





**(14). 背面パネルの接続****KV7:****KV7-V:**

- **マウス** : PS/2 マウスに接続します。
- **キーボード** : PS/2 キーボードに接続します。
- **LPT1** : この通信プロトコルをサポートするプリンタやその他のデバイスに接続します。
- **COM1** : この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたはその他のデバイスに接続します。
- **AUDIO1 : (KV7)**

**R.L./R.R. (背面左 / 背面右)** : 5.1 チャンルのオーディオシステムの背面左および背面右チャンネルに接続します。

**Cen./Sub. (センター / サブウーファ)** : 5.1 チャンルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャンネルに接続します。

**S/PDIF Out** : このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへのS/PDIF アウト接続を提供します。

**Mic In** : 外部マイクからプラグに接続します。

**Line In** : 外部オーディオソースからラインアウトに接続します。

**F.L./F.R. (前面左 / 前面右)** : 5.1 チャンルまたは通常の 2 チャンルオーディオシステムの前面左と前面右チャンネルに接続します。

- **AUDIO2 : (KV7-V)**

**Mic In** : 外部マイクからプラグに接続します。

**Line In** : 外部オーディオソースからラインアウトに接続します。

**Line Out** : 5.1 チャンネルまたは通常の 2 チャンネルオーディオシステムの前面左と前面右チャンネルに接続します。

- **LAN** : 構内通信網 (LAN) に接続します。
- **USB1/USB2** : スキャナ、デジタルスピーカー、モニタ、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

## 第3章 BIOS について

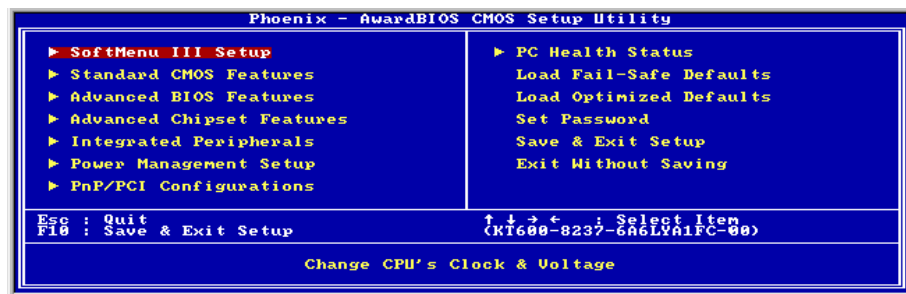
このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときにだけ、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

### PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>+<Alt>+<Del>キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してシステムを再起動します。これらの2つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

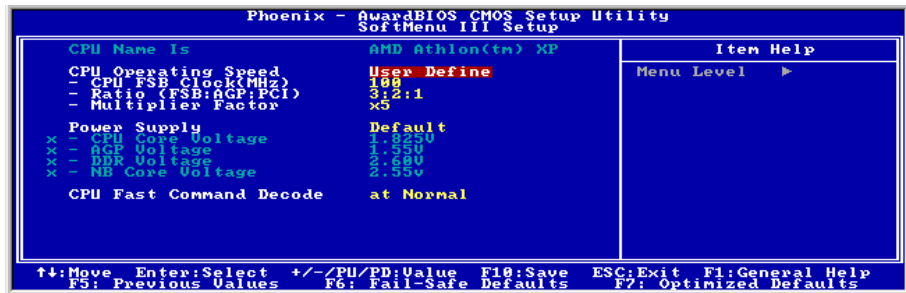
<Del>キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。



注：システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

### 3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。



#### CPU Name Is:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば AMD Athlon(tm) XP を表示します。

#### CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

#### User Define:

**警告:** クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

#### ※ CPU FSB Clock (MHz):

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を 100 から 250 まで設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はされません。

#### ※ Ratio (FSB:AGP:PCI):

このアイテムは FSB、AGP、PCI のクロック間の比率を設定します。4:2:1 の比率を例に上げます。FSB クロックが 133MHz (133 x 4/4)の場合、AGP クロックは 66MHz (133 x 2/4)になり、PCI クロックは 33MHz (133 x 1/4)になります。

---

**※ Multiplier Factor:**

このアイテムは、取り付けた CPU の乗数を設定します。

**注意:** プロセッサによっては、この乗数をロックしているものもあり、その場合大きい乗数を選択することはできません。

---

**Power Supply:**

このオプションによって、CPU デフォルトとユーザー定義の電圧を切り替えることができます。この設定は、現在の CPU タイプと電圧設定を検出できない場合、または正しくない場合を除き、デフォルトのままにしておいてください。オプション「**ユーザー定義**」では、コア電圧を手動で選択できます。

**※ CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

**注意:** 間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

---

**AGP Voltage:**

このアイテムは、AGP の電圧を選択します。

---

**DDR Voltage:**

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

---

**NB Core Voltage:**

このアイテムは、NB Core の電圧を選択します。

---

**CPU Fast Command Decode (CPU 高速コマンドデコード):**

次の3つのオプションが指定できます: at Normal (標準で) → to Fast or at Fast (高速にまたは高速で) → to Normal (標準に)。これは、ユーザーがどんな状態を選択しているかに依存します。このアイテムを“at Fast (高速で)”から“to Normal (標準に)”に設定すると、システムを再起動して POST プロセスを終了するとき、状態は新しい設定に変わります（ここでは、to Normal）。その後、BIOS メニューを再び表示すると、このアイテムは“at Normal (標準で)”を表示し、<Enter>キーを押すと、3つのオプション: at Normal (標準で) → to Fast (高速に)を表示し、デフォルトの設定が at Normal (標準で)になります。このアイテムを“at Normal (標準で)”から“to Fast (高速に)”に設定し、前に述べた手順を同じように実行すると、このアイテムは“at Fast (高速で)”を表示し、<Enter>キーを押すと、3つのオプション: at Fast (高速で) → to Normal (標準に)を表示し、デフォルトの設定が at Fast (高速で)になります。CPU デコードアドレスが高速または標準の速度になっている場合、アイテムを選択することができます。最大の安定性を得るには、to Normal (標準に)を選択するようにお勧めします。性能を向上させたい場合は、to Fast (高速に)を選択することができます。メインボードの“CROM1”と呼ばれるジャンパをピン1およびピン2ショートに設定すると、このアイテムがこのメニューに表示されます。

---

## 3-2. Standard CMOS Features



### Date (mm:dd:yy):

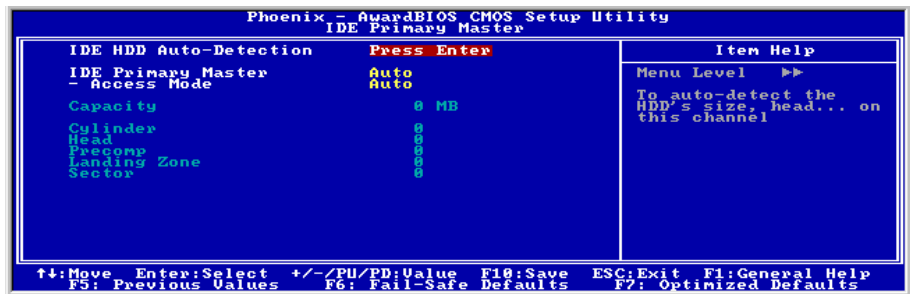
このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

### Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

### ☞ IDE Primary Master/Slave、IDE Secondary Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



### IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

### IDE Primary Master/Slave、IDE Secondary Master/Slave:

[Auto]（自動）に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual]（マニュアル）に設定し、バ

ラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

---

**Access Mode:**

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

---

**Capacity:**

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

---

**Cylinder:**

このアイテムはシリンダの数を構成します。

---

**Head:**

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

---

**Precomp:**

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

---

**Landing Zone:**

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

---

**Sector:**

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

🔍 **Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります :**

---

**Drive A & Drive B:**

このアイテムは取り付けたフロッピードライブ（通常、ドライブ A のみ）のタイプを設定します。

---

**Floppy 3 Mode Support:**

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3 モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled] (使用不可能) 設定のままにしてください。

---

**Video:**

このアイテムは、一次システム監視で使用するビデオアダプタのタイプを選択します。

**[EGA/VGA]:** (Enhanced Graphics Adapter/Video Graphics Array) EGA、VGA、SVGA、PGA モニタアダプタの場合。

**[CGA 40]:** (Color Graphics Adapter) 40 カラムモードで駆動。

**[CGA 80]:** (Color Graphics Adapter) 80 カラムモードで駆動。

**[Mono]:** (Monochrome adapter) 高解像度のモノクロームアダプタを組み込み。

---

**Halt On:**

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

**[All Errors]:** システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

**[No Errors]:** システムブートは、エラーを検出すると停止します。

**[All, But Keyboard]:** システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

**[All, But Diskette]:** システムブートは、ディスクエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

**[All, But Disk/Key]:** システムブートは、ディスクまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

---

**Base Memory:**

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

---

**Extended Memory:**

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

---

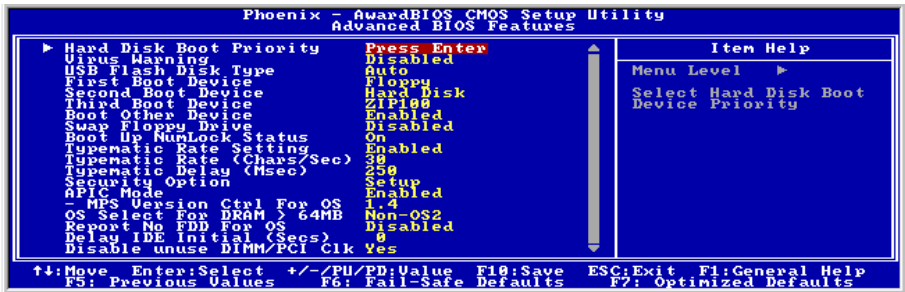
**Total Memory:**

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

---



### 3-3. Advanced BIOS Features



#### Hard Disk Boot Priority:

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用に選択することができます。

このアイテムは、1 次/2 次/3 次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

#### Virus Warning:

このアイテムは Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。デフォルトは Disabled です。この機能を使用すると、ソフトウェアやアプリケーションからブートセクタやパーティションテーブルに対して書き込みアクセスがある度に、ブートウィルスがハードディスクにアクセスしようとしているとして警告を出します。

#### USB Flash Disk Type:

この項目は、ご使用の USB フラッシュディスクの種類を選択します。

#### First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第 1 ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第 2 ブートデバイス)、[Third Boot Device] (第 3 ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第 1、第 2、第 3 ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の 3 つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

#### Swap Floppy Drive:

[Enabled] (使用可能) に設定しているときに、システムをフロッピードライブから起動すると、システムは通常のドライブ A の代わりにドライブ B から起動します。この機能を使用するには、システムに 2 基のフロッピードライブを接続している必要があります。

---

**Boot Up Floppy Seek:**

[Enabled] (使用可能) に設定していると、BIOS はフロッピーディスクドライブがインストールされているかどうかをチェックします。

---

**Boot Up NumLock Status:**

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On] : 数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off] : 矢印キーとしての数値キーパッド機能。

---

**Typematic Rate Setting:**

このアイテムではキーストロークのリピート速度を設定できます。Enabled (使用する) を選択すると、キーボードに関する以下の2つのタイプマティック制御 (Typematic Rate と Typematic Rate Delay) を選択できます。このアイテムを Disabled (使用しない) にすると、BIOS はデフォルト設定を使用します。初期値設定は **Enabled** です。

---

**Typematic Rate (Chars/Sec):**

キーを押しつづけると、キーボードは設定速度 (単位: キャラクタ/秒) に従ってキーストロークをリピートします。8つのオプションが指定できます: 6 → 8 → 10 → 12 → 15 → 20 → 24 → 30 → 6 に戻る。初期値設定は **30** です。

---

**Typematic Delay (Msec):**

ここで設定した時間以上にキーを押しつづけていると、キーボードは一定の速度 (単位: ms) でキーストロークを自動的にリピートします。4つのオプションが指定できます: 250 → 500 → 750 → 1000 → 250 に戻る。初期値設定は **250** です。

---

**Security Option:**

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき - システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

**注:** パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

---

**APIC Mode:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

---

**MPS Version Ctrl For OS:**

この項目は、このマザーボードが使用する MPS (多重プロセッサ仕様) のバージョンを指定し

ます。オプションは 1.1 と 1.4 です。デフォルトの設定は **1.4** です。デュアルプロセッサを実行するために古い OS を使用する場合、このオプションを 1.1 に設定してください。

---

**OS Select For DRAM > 64MB:**

このアイテムにより、OS/2 で 64MB 以上のメモリにアクセスできます。OS/2 以外のオペレーティングシステムの場合、このアイテムをデフォルトの[非 OS2]設定のままにしておいてください。

---

**Report No FDD For OS:**

[Enabled] (使用可能) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

---

**Delay IDE Initial (Secs):**

このアイテムにより、BIOS は遅延時間を引き延ばすことによって一部の古いまた特殊な IDE デバイスをサポートすることができます。値を大きくすると、デバイスを初期化したり動作できる準備をするための遅延時間が長くなります。

---

**Disable Unuse DIMM/PCI Clock:**

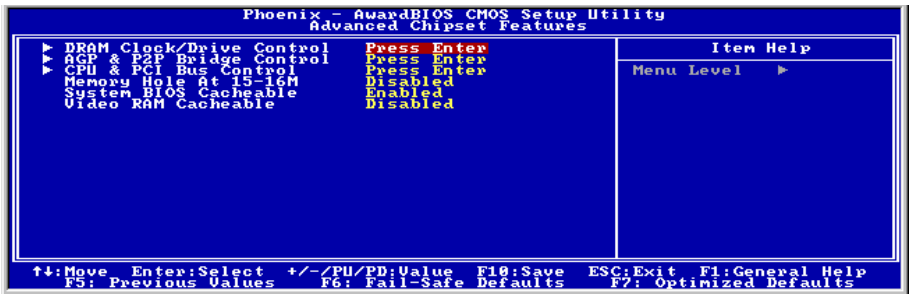
このオプションは、使用されていない DIMM/PCI スロットのクロックを使用不可能にします。

[Yes]: システムは未使用の DIMM と PCI スロットを自動的に検出し、これらの未使用 PCI スロットへのクロック信号の送信を停止します。

[No]: システムはすべての PCI スロットにクロック信号をたえず送信します。

**注 :** システムが自動的に検出できないアダプタがある場合、このオプションを[いいえ]に設定すると、誤動作の原因となります。

### 3-4. Advanced Chipset Features



#### DRAM Clock/Drive Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



#### Current FSB Frequency:

この項目は、現在のシステムの前方バス速度を表示します。

#### Current DRAM Frequency:

この項目は、現在の DRAM バス速度を表示します。

#### DRAM Clock:

このアイテムは、DRAM モジュールの DRAM クロックを設定します。DRAM モジュールが設定したクロックをサポートしないと、システムは不安定になるか、起動できなくなります。

[SPD による]に設定すると、BIOS は DRAM モジュールの SPD データを読み込んで、格納されている値によって DRAM クロックを自動的に設定します。

---

**DRAM Timing Selectable:**

4 つのオプション、Manual (手動) → By SPD → Turbo → Ultra を使用することができます。デフォルトの設定は *By SPD* です。By SPD に設定すると、BIOS は DRAM モジュール SPD データを読み取り、保存されている値を自動的に設定します。「手動」に設定すると、ユーザーは次の 5 つの項目を使用して調整することが可能になります。

**\* CAS Latency Time:**

4 つのオプション、1.5 → 2 → 2.5 → 3 を使用することができます。デフォルトの設定は 2.5 です。SDRAM 仕様に従い、SDRAM CAS (カラムアドレスストロープ) レイテンシータイムを選択することができます。

**\* Bank Interleave:**

3 つのオプション、無効(Disabled) → 2 Way → 4 Way を使用することができます。デフォルトの設定は無効(Disabled)です。SDRAM モジュール構造によって、“4 Way” 設定は最高の性能を提供することができます。間違った設定を選択すると、コンピュータシステムは安定した方法で実行されません。SDRAM モジュールの詳細については、SDRAM モジュールのメーカーにお問合せください。

**\* Precharge to Active (Trp):**

Trp タイミング値 (プリチャージ時間 - プリチャージコマンドからバンクをアクティブにできるまでの時間)。

**\* Active to Precharge (Tras):**

Tras タイミング値 = アクティブから同じバンクのプリチャージまでの最小バンクアクティブ時間

**\* Active to CMD (Tred):**

Tred タイミング値 = RAS から CAS レイテンシー + rd

---

**DRAM Burst Length:**

DDR SDRAM モジュールはバーストモードを提供します。バーストモードとは、4 または 8 ロケーションのプログラム可能な READ (読み込み) または WRITE (書き込み) バースト長に対する自動プリチャージ機能を意味します。

これは、バースト長を 8 に設定すると、プリチャージするためにアドレスバスがサイクル当り 8 バイトにアクセスすることを意味します。

---

**DRAM Command Rate:**

2 つのオプション、2T コマンドまたは 1T コマンドを使用することができます。デフォルトの設定は 2T コマンドです。ホスト (ノースブリッジ) が希望するメモリアドレスを配置するとき、コマンドの待ち状態を処理します。システム互換性を実現するためにこれを「2T コマンド」に、またはシステム性能を向上させるために「1T コマンド」に設定します。

---

**Write Recovery time:**

次の 2 つのオプションが指定できます: 2T または 3T。デフォルトは 3T です。これは、2 つの書

き込み時間の間の期間です。

**DDR400 tWTR timing control:**

次の2つのオプションが指定できます: 1T または 2T。デフォルトは 2T です。これは、内部 WRITE（書き込み）から READ（読み込み）コマンドの遅延時間です。

**DDR DQS Output Delay:**

2つのオプション、Auto（自動）または Manual（手動）を使用することができます。デフォルトの設定は「自動」です。「手動」に設定すると、次の項目を使用することができます。

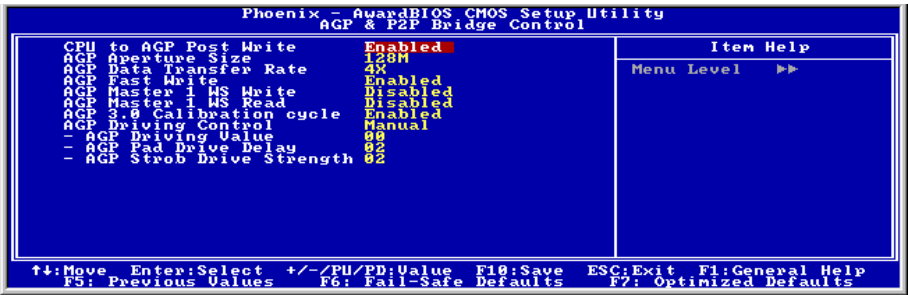
※ **Output Delay Value:**

この項目により、メモリのデータ出力ストロブ遅延時間を調整することができます。このセクションに HEX 番号を打ち込むことができます。

🔍 **Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:**

**AGP & P2P Bridge Control:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



**CPU to AGP Post Write:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

**AGP Aperture Size:**

このオプションは、AGP デバイスが使用できるシステムメモリの量を指定します。アパチャはグラフィックスメモリアドレススペース用に割り当てられた PCI メモリアドレス範囲の一部分です。

**AGP Data Transfer Rate:**

このアイテムにより、AGP デバイスのデータ転送速度を選択できます。速度が高ければ高いほど、システムのグラフィックス速度は高速になり性能も向上します。お使いのグラフィックスカードが選択したモードをサポートすることを確認してください。

---

**AGP Fast Write:**

2 つのオプション、Disabled (無効)または Enabled (有効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Disabled* です。お使いの AGP アダプタがこの機能をサポートできる場合、「**有効**」を選択することができます。そうでない場合は、「**無効**」を選択します。

---

**AGP Master 1 WS Write:**

2 つのオプション、Enabled (有効)または Disabled (無効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Disabled* です。このオプションは、AGP バスに書き込んでいるとき単一遅延を実行します。これを「**有効**」に設定するとき、システムにより 2 つの待ち状態が使用され、安定性がさらに増します。

---

**AGP Master 1 WS Read:**

2つのオプション、Enabled (有効)または Disabled (無効)を使用することができます。デフォルトの設定は *Disabled* です。このオプションは、AGP バスを読み込んでいるとき単一遅延を実行します。これを「**有効**」に設定するとき、システムにより 2 つの待ち状態が使用され、安定性がさらに増します。

---

**AGP 3.0 Calibration cycle:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

---

**AGP Driving Control:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

※ **AGP Driving Value:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

※ **AGP Pad Drive Delay:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

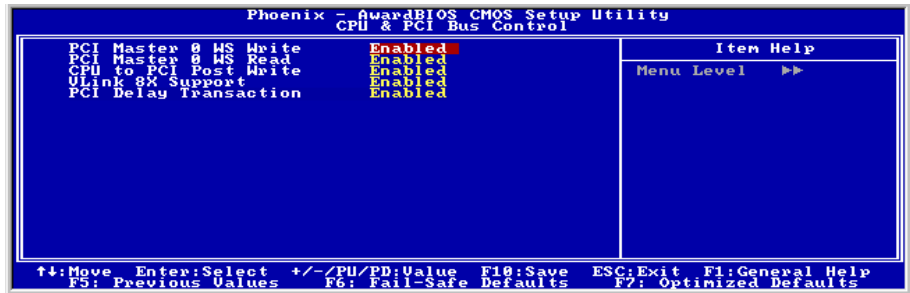
※ **AGP Strob Drive Strength:**

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

## 🔍 Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

### CPU & PCI Bus Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



### PCI Master 0 WS Write :

次の2つのオプションが指定できます: Enabled (使用する) → Disabled (使用しない)。デフォルト設定は Enabled (使用する) です。Enabled (使用する) に設定されているとき、PCI バスへの書き込みは、PCI がデータ受信の準備ができると (直ちに) ゼロの待ち状態を実行します。Disabled (使用しない) に設定されていると、システムはデータを PCI バスに書き込む前に 1 の待ち状態を実行します。

### PCI Master 0 WS Read :

次の2つのオプションが指定できます: Enabled (使用する) → Disabled (使用しない)。デフォルト設定は Enabled (使用する) です。Enabled (使用する) に設定されていると、PCI バスへの読み込みは、PCI バスがデータ転送の準備ができると (直ちに) ゼロの待ち状態で実行されます。Disabled (使用しない) に設定されていると、システムはデータを PCI バスに書き込む前に 1 の待ち状態を実行します。

### CPU to PCI Post Write :

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) → Enabled (使用する)。デフォルト設定は Enabled (使用する) です。Enabled (使用する) に設定しているとき、PCI ポスト書き込みバッファを有効にして、PCI マスター読み込み待ち時間を最小限にします。

### VLink 8X Support:

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは Enabled (使用する) です。このアイテムにより、ノースブリッジとサウスブリッジの間で Vlink バスデータ転送が可能になります。

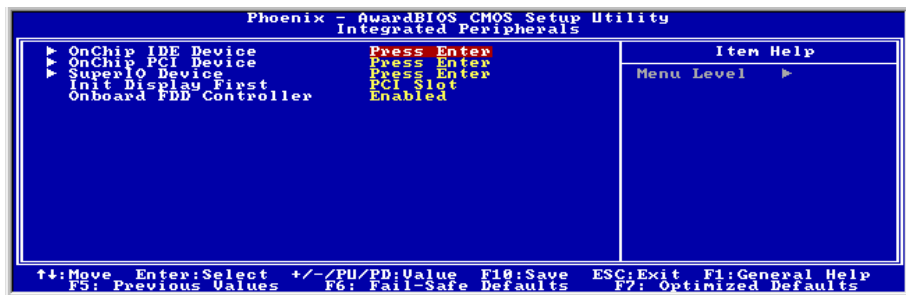


---

**PCI Delay Transaction:**

2つのオプション、Disabled (無効) または Enabled (有効) を使用することができます。デフォルトの設定は *Enabled* です。チップセットは 32 ビット Post 書き込みバッファを埋め込み、遅延トランザクションサイクルをサポートします。「**有効**」を選択すると、PCI 仕様バージョン 2.1 に対する準拠をサポートします。

### 3-5. Integrated Peripherals



#### ☞ OnChip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



#### IDE Prefetch Mode:

2つのオプション、無効(Disabled)または有効(Enabled)を使用することができます。デフォルトの設定は無効(Disabled)です。オンボード IDE ドライブインターフェイスは、高速ドライブアクセスを先取りするための IDE 先取りをサポートします。プライマリまたはセカンダリアドイン IDE インターフェイスおよびその両方を取り付ける場合、インターフェイスが先取りをサポートしていない場合、このフィールドを無効(Disabled)に設定してください。

#### OnChip SATA Device:

このオプションは、OnChip SATA コントローラを有効または無効にします。

#### OnChip IDE-1 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

### ※ Master/Slave Drive PIO Mode

PIO (プログラムド I/O) モードにより、BIOS はコントローラに必要なものを伝えることでコントローラと CPU が完全なタスクを実行できるようにします。BIOS が一連のコマンドを出して、ディスクドライブへの送受信に影響を及ぼすことはありません。

[Auto]: BIOS は、ディスクドライブをチェックした後利用に最も適したモードを選択します。

[Mode 0-4]: ディスクドライブのタイミングに一致するモードを選択できます。間違った設定を使用しないでください、そうでないとドライブエラーが発生します。

### ※ Master/Slave Drive Ultra DMA

このアイテムにより、Ultra DMA を使用できるように設定できます。

[Auto]: BIOS は、ハードドライブや CD-ROM をチェックした後、利用に最も適したオプションを選択します。

[Disabled]: BIOS はこれらのカテゴリを検出しません。Ultra DMA デバイスを使用中に問題が発生したら、このアイテムを使用不可能にしてください。

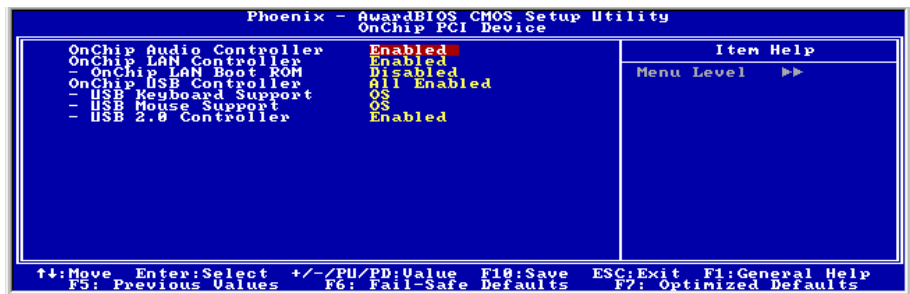
## OnChip IDE-2 Controller:

OnChip IDE-1 Controller の説明を参照してください。

## ↩ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

## OnChip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



## OnChip Audio Controller:

このアイテムはオンボードオーディオコントローラを使用できるようにします。

## OnChip LAN Controller:

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

**OnChip LAN Boot ROM:**

このアイテムはオンボード LAN Boot ROM を使用できるようにします。

**OnChip USB Controller:**

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

※ **USB Keyboard Support Via:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB キーボードを使用するための[BIOS]を、または、または OS 環境では[OS]を選択することができます。

※ **USB Mouse Support Via:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[BIOS]を、または、または OS 環境では[OS]を選択することができます。

※ **USB 2.0 Controller:**

このアイテムはオンボード USB 2.0 コントローラを使用できるようにします。

🔍 **Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:****SuperIO Device:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

**Onboard Serial Port 1:**

シリアルポート 1 の I/O アドレスと IRQ を指定します。選択可能な値は Disabled → 3F8/IRQ4 → 2F8/IRQ3 → 3E8/IRQ4 → 2E8/IRQ3 → AUTO です。初期値設定は **3F8/IRQ4** です。

**Onboard Parallel Port:**

オンボードパラレルポートの I/O アドレスと IRQ を設定できます。4つのオプションから選択できます: Disable → 378/IRQ7 → 278/IRQ5 → 3BC/IRQ7。初期値設定は **378/IRQ7** です。

**Parallel Port Mode:** 4つのオプションから選択できます: SPP → EPP → ECP → ECP+EPP。初期値設定は **ECP+EPP** です。

**EPP Mode Select:** 2つのオプションから選択できます:EPP1.7 ➔ EPP1.9。初期値設定は **EPP 1.7** です。パラレルポートのモードを EPP モードに設定すると、2つの EPP バージョンから選択できます。

**ECP Mode Use DMA:** 2つのオプションから選択できます: 1 ➔ 3。初期値設定は **3**です。パラレルポートのモードを ECP モードに設定すると、DMA チャンネルは Channel 1 か Channel 3 となります。

## **Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:**

---

### **Init Display First:**

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

**[AGP]:** システムが起動するとき、まず AGP を初期化します。

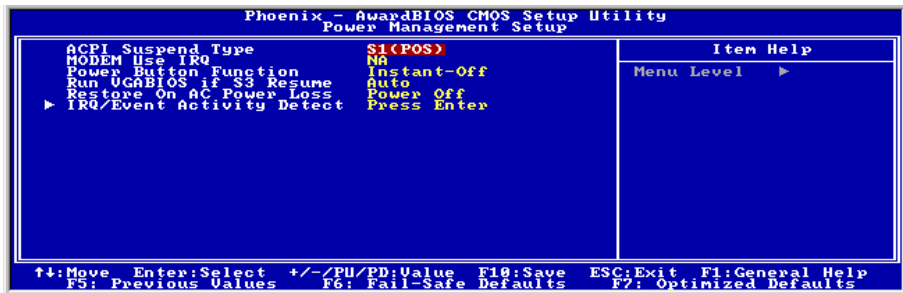
**[PCI Slot]:** システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

---

### **Onboard FDD Controller:**

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。Enabled（使用する）または Disabled（使用しない）に設定できます。デフォルトは Enabled です。

### 3-6. Power Management Setup



#### ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(POS)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(STR)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

#### MODEM Use IRQ:

IRQ をモデム用に指定できます。8 つのオプションが指定できます: N/A → 3 → 4 → 5 → 7 → 9 → 10 → 11。初期値設定は N/A です。

#### Power Button Function:

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.]: 電源ボタンを 4 秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押ししたりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off]: 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

#### Run VGABIOS if S3 Resume:

次の 3 つのオプションが指定できます: Auto (自動) → Yes (はい) → No (いいえ)。デフォルトは Auto (自動) です。このアイテムにより、いつ S3 レジュームをアクティブにするか、VGA BIOS を開始する必要があるかどうかを選択することができます。

#### Restore On AC Power Loss:

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off]: AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。。

### IRQ/Event Activity Detect:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



### Power On Function:

次の4つの機能が指定できます: Hot Key (ホットキー) → Password (パスワード) → Mouse (マウス) → Button Only (ボタンのみ)。デフォルトは *Button Only* (ボタンのみ) です。このアイテムにより、コンピュータの電源をオンにする方法を選択できます。選択するアイテムに応じて、次のアイテムの一部を利用して詳細設定を行うことができます。例えば、このアイテムを *Password* (パスワード) に設定すると、アイテム“KB 電源オンパスワード”によりパスワードを入力することができます。このアイテムを *Hot Key* (ホットキー) に設定すると、アイテム“ホットキー電源オン”により希望するホットキーを選択できます。 *Mouse* (マウス) を選択すると、マウスの任意のボタンを押してコンピュータの電源をオンにすることができます。

**注:** この「電源オン」機能を有効にするには、[PS2-PWR1]、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の呼び起こしヘッダを[Enabled (有効)]の位置に設定する必要があります。第2章、2-4項の「呼び起こしヘッダ」[PS2-PWR1]、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の構成を参照してください。

マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

#### \* KB Power ON Password:

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

**注:** パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

---

**\* Hot Key Power ON:**

このアイテムは、<Ctrl>キーと機能キー(<F1> ~ <F12>)のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

---

**PS2MS Wakeup:**

この項目は PS2 マウスをコントロールして、電源が切れた状態にあったシステムのウェイクアップ起動を行います。

---

**Resume by OnChip USB:**

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。*Enabled (使用する)* に設定すると、オンチップ USB に影響を与えるすべてのイベントは電源がダウンしたシステムを呼び起こします。

---

**VGA:**

2つの項目、OFF (オフ) または ON (オン) を使用することができます。デフォルトの設定は *OFF* です。「**オン**」に設定するとき、VGA ポートで発生するイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起します。

---

**LPT & COM:**

4つの項目、NONE (なし) → LPT → COM → LPT/COM を使用することができます。デフォルトの設定は *LPT/COM* です。「**LPT/COM**」に設定しているとき、LPT (プリンタ) または CPM (シリアル) ポートで発生するすべてのイベントは、パワーダウンしたシステムを呼び起します。

---

**HDD & FDD:**

2つの項目、OFF (オフ) または ON (オン) を使用することができます。デフォルトの設定は *ON* です。「**オン**」に設定するとき、ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブポートに影響を与えるイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起します。

---

**PCI Master:**

2つの項目、OFF (オフ) または ON (オン) を使用することができます。デフォルトの設定は *OFF* です。「**オン**」に設定するとき、PCI マスタ信号に影響を与えるイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起します。

---

**WakeUp by PME# of PCI:**

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

---

**Resume By Ring:**

次の2つのアイテム、Disabled (使用しない) または Enabled (使用する) が設定できます。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。*Enabled (使用する)* に設定するとき、モデムリングに影響を及ぼすイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起こします。

---



**Wakeup by Alarm:**

次の 2 つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。*Enabled (使用する)* に設定すると、RTC (リアルタイムクロック) アラームがサスペンドモードからシステムを呼び起こす日と時間を設定できます。

\* **Date (of month)/Resume Time (hh:mm:ss) :**

日付 (月) アラームと時間アラーム (hh:mm:ss) を設定することができます。発生するイベントはすべて、パワーダウンしたシステムを呼び起します。

**IRQ Activity Monitoring:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

**All Interrupt Event:**

2 つのオプション、Off (オフ) または Manual (マニュアル) を使用することができます。デフォルトの設定は *Manual* です。この項目を「**マニュアル**」に設定すると、次の IRQ イベントを使用して調整することができます。

「**無効**」に設定するとき、アクティビティはシステムが省電力モードに入ることもそれを呼び起こすことも妨げることはありません。それぞれの項目には、2 つのオプション、Enabled (有効) → Disabled (無効) があります。

### 3-7. PnP/PCI Configurations



#### Force Update ESCD:

次回ブートアップしたときに ESCD のデータを消去して、BIOS に PnP ISA カードと PCI カードの設定をリセットしたい場合は、Enabled を選択してください。ただし次回ブートアップするときには、このオプションは再び自動的に Disabled に戻されます。

**注意：**ESCD (Extended System Configuration Data) にはシステムの IRQ、DMA、I/O ポート、メモリ情報が記録されます。これは Plug & Play BIOS の仕様であり機能です。

#### Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

[Auto(ESCD)]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

#### ※ IRQ Resources:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。



## 🔗 PnP/PCI Configurations Setup Menu に戻ります:

### PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

### Allocate IRQ To Video :

このアイテムは、取り付けた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Yes] : 取り付けた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[No] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

### Allocate IRQ To USB

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

### PIRQ 0 Use IRQ No. ~PIRQ 3 Use IRQ No. :

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

PIRQ (VIA VT8237 チップセットからの信号)、INT# (PCI スロット IRQ 信号のことです) のハードウェアレイアウト間の関係については、下の表を参照してください。

信号	AGP	LAN	PCI-1	PCI-2	PCI-3	PCI-4	PCI-5	SATA
PIRQ_0 割り当て	INT A	INT A	INT A	INT D	INT C	INT B	INT D	INT A
PIRQ_1 割り当て	INT B		INT B	INT A	INT D	INT C	INT C	
PIRQ_2 割り当て			INT C	INT B	INT A	INT D	INT B	
PIRQ_3 割り当て			INT D	INT C	INT B	INT A	INT A	

#### 注意 :

- PCI スロット 1 は AGP スロット、LAN、SATA で IRQ 信号を共有。
- PCI スロット 4 は PCI スロット 5 で IRQ 信号を共有。
- 同時に 1 つの IRQ を共有するこれらの PCI スロットに 2 枚の PCI カードを取り付けたい場合、OS と PCI デバイスのドライバが IRQ 共有機能をサポートしていることを確認する必要があります。

### 3-8. PC Health Status



#### CPU Shutdown Temperature:

このアイテムは、システムが過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

#### CPU Warning Temperature:

このアイテムは、CPU の警告温度の限界を選択します。システムが CPU の温度が限界を超えていることを検出すると、警告音が鳴ります。

**注:** オンボードハードウェア監視機能は、これらのシステムヘルス状態を検出できます。異常な状態が発生したとき、警告メッセージを表示したり警告アラームを鳴らしたい場合、“ハードウェアドクター”ユーティリティをインストールする必要があります。このユーティリティは本マザーボードに付属する“ドライバとユーティリティ CD”に含まれています。

#### FAN Fail Alarm Selectable:

このアイテムは、誤動作を監視するファンを選択します。

#### Shutdown When CPU Fan Fail:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、システムは CPU ファンが作動していないときに停止します。

#### CPU FanEQ Speed Control:

このアイテムによって、CPU のファン速度を特定のパーセンテージに下げないように制御できます。

特定のパーセンテージに設定されているとき、アイテム「動作温度」で設定されている温度制限を超えない場合、CPU のファン速度はこのアイテムで設定したパーセンテージで動作します。

CPU のファン速度は、アイテム「動作温度」で設定されている温度制限を超える場合、この制限で設定されたパーセンテージには関わらず、100%で動作します。

#### ※ **Active Temperature:**

この項目は、「CPU FanEQ 速度コントロール」オプションの機能をアクティブにする温度の上限を設定します。

---

**All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:**

CPU と環境の温度、ファンの回転速度、システムの電源の電圧を表示します。これらの値は変更できません。

**注:** 温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

---

### 3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

---

### 3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

---

### 3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

---

### 3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

---

### 3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。



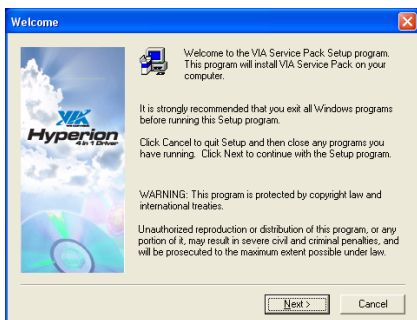
## 付録 A. VIA 4-in-1 ドライバのインストール

**注：**Windows オペレーティングシステムをインストールした後、まず VIA 4-in-1 ドライバをインストールしてください。

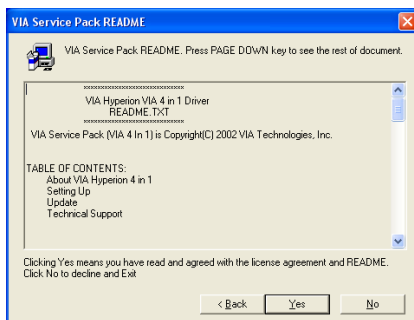
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

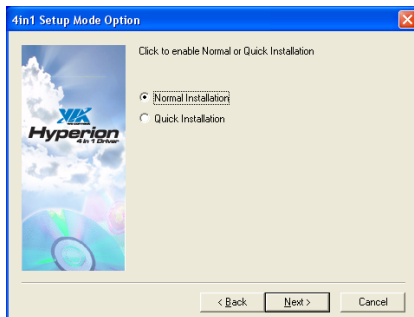
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA 4in1 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



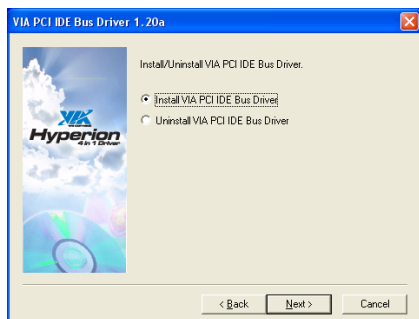
2. [はい] をクリックします。



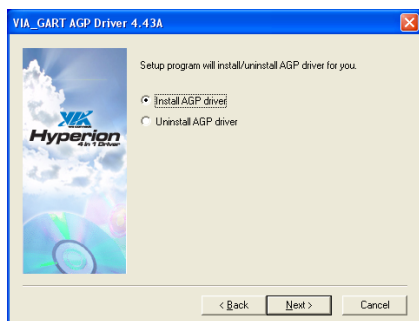
3. [次へ] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。



5. [次へ] をクリックします。



6. [次へ] をクリックします。



7. [はい、今すぐコンピュータを再起動します] を選択されるようお勧めします。[終了]をクリックしてインストールを終了します。



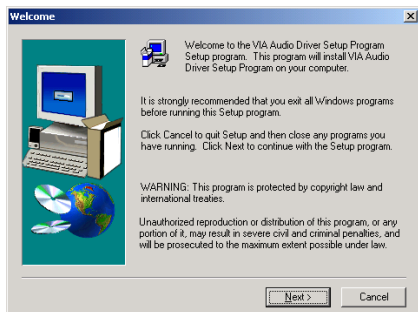
## 付録 B. オーディオドライバのインストール

### KV7:

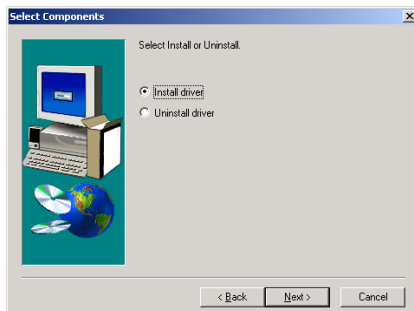
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンからの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

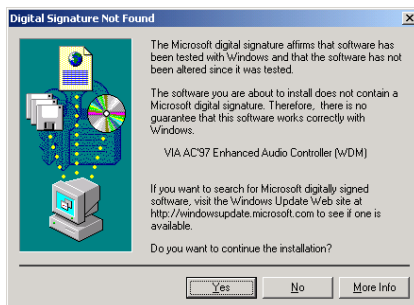
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[オーディオ ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



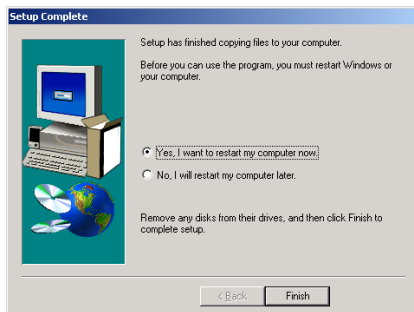
1. [次へ] をクリックします。



2. [次へ] をクリックします。



3. [はい] をクリックします。



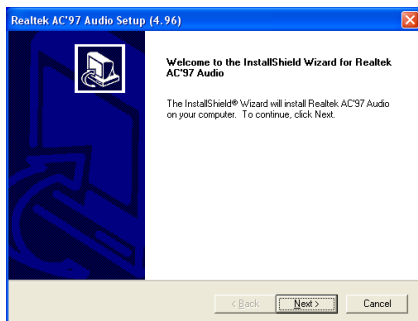
4. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

**KV7-V:**

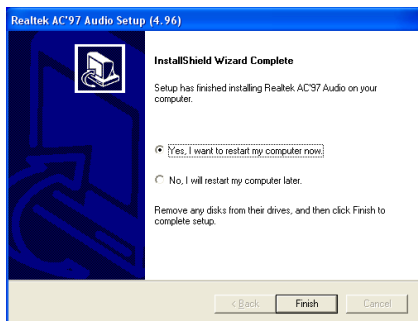
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[オーディオ ドライブ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



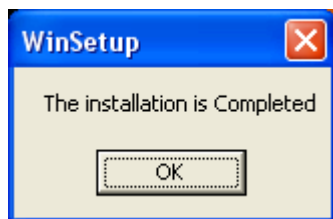
2. [はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

## 付録 C. LAN ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[LAN ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [OK] をクリックします。



## 付録 D. VIA USB 2.0 ドライバのインストール

**注:** Service Pack 1 をすでにインストールしている場合、Windows XP オペレーティングシステムの VIA USB 2.0 ドライバをインストールする必要はありません。Windows update を起動して最新の Service Pack を入手してください。

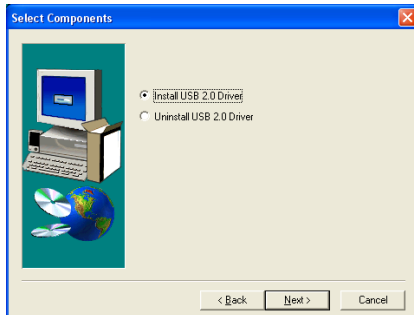
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

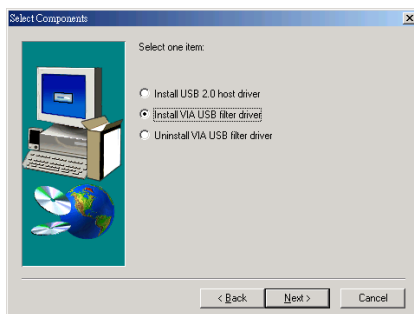
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA USB 2.0 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



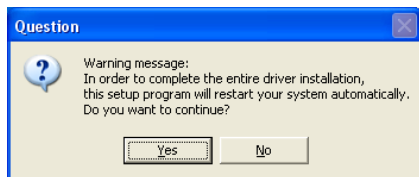
1. 「次へ」をクリックします。



2. 「次へ」をクリックします。



3. Windows 2000 をインストールしている場合、まず SP4 にアップグレードし、アイテム「VIA USB フィルタドライバのインストール」を選択する必要があります。[次へ]をクリックして続行してください。



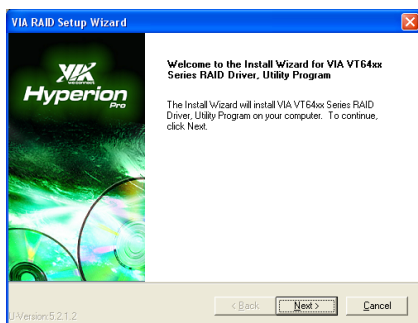
4. [はい] をクリックします。

## 付録 E. シリアルATA RAID ドライバのインストール

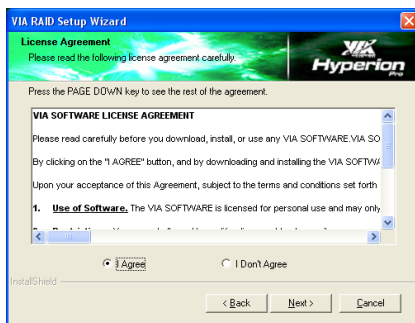
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

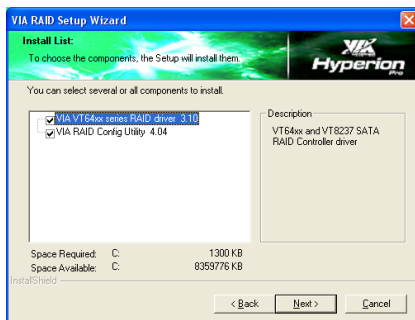
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA SATA RAID ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



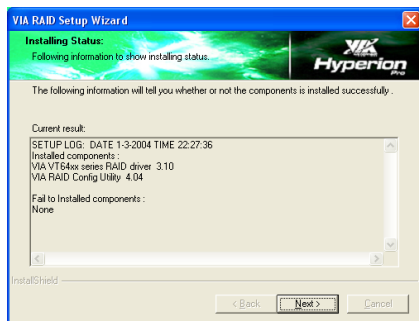
2. [次へ] をクリックします。



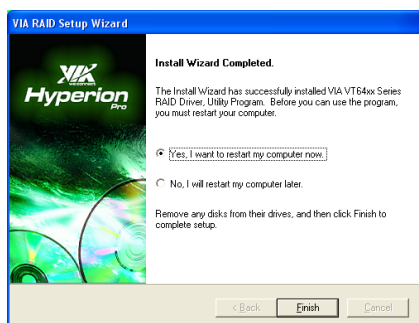
3. [次へ] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。



5. [次へ] をクリックします。



6. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

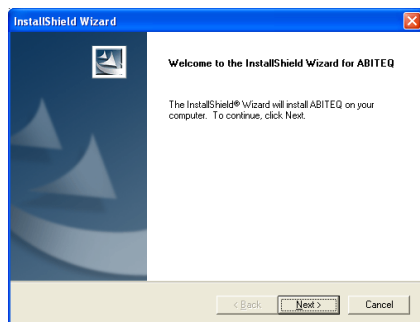


## 付録 F. ABIT EQ (Hardware Doctor ユーティリティ)

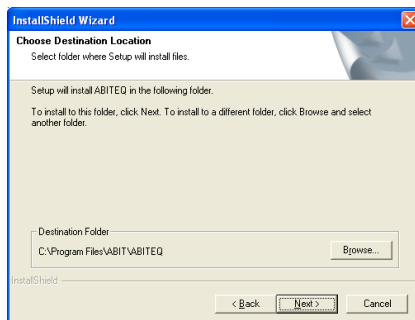
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

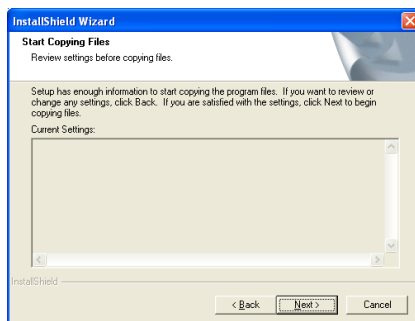
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ABIT Utility]タブに移動します。[ABIT EQ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



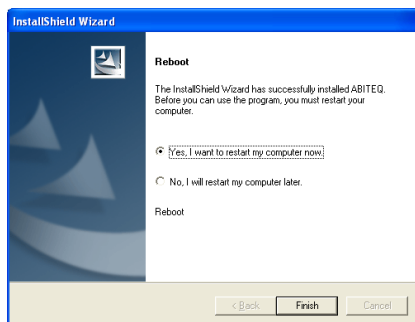
1. [次へ>] をクリックします。



2. [次へ>] をクリックします。



3. [次へ>] をクリックします。



4. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



5. Windows ツールバーをポイントしてを ABIT EQ 実行し、[スタート] → [プログラム] → [ABIT] → [ABIT EQ] を順にクリックします。



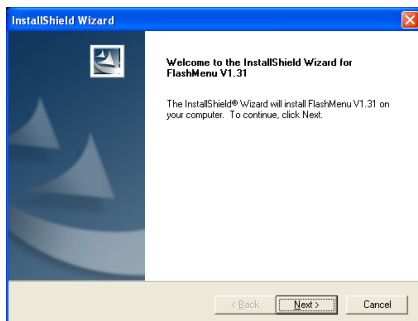
6. この画面が表示されます。ABIT EQ は電圧、ファン速度、温度の状態を表示します。(ここで記載された画面のアイテム名は参考です。実際の画面とは異なる場合があります。)

## 付録 G. FlashMenu (BIOS 更新ユーティリティ)

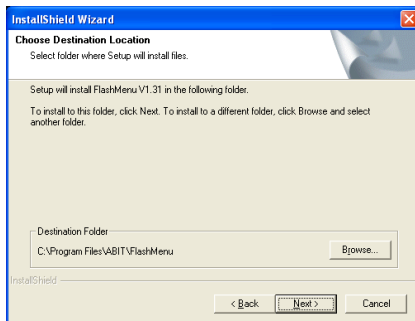
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

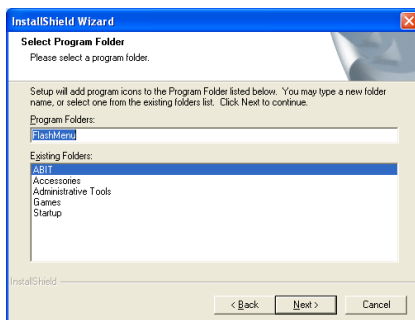
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT Utility] タブに移動します。[FlashMenu] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



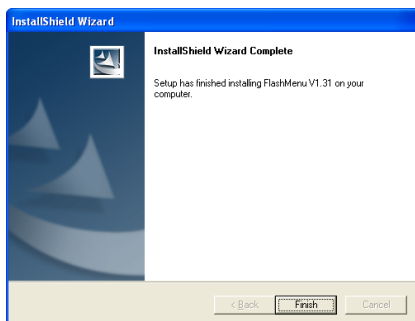
1. [次へ>] をクリックします。



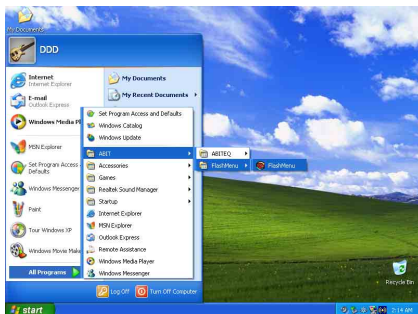
2. [次へ>] をクリックします。



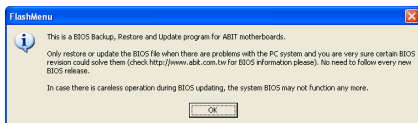
3. [次へ>] をクリックします。



4. [終了] をクリックしてインストールを終了します。



5. Windows ツールバーをポイントしてを FlashMenu 実行し、[スタート] → [プログラム] → [ABIT] → [FlashMenu] を順にクリックします。



6. [OK] をクリックします。



7. このような FlashMenu 画面が表示されます。[Update From File]、[One Click LiveUpdate]、または [LiveUpdate Step by Step] ボタンをクリックして BIOS を簡単に更新することができます。

## 付録 H. トラブルシューティング

### Q & A:

**Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?**

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお勧めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

**Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?**

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

**Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?**

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メインボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

**Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?**

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せずに、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

**例 1：** マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

**それでも起動しない場合：**

他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうか試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、“問題の説明”欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

**起動する場合：**

取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、“その他のカード”の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、および問題をについての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

**例 2：** マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

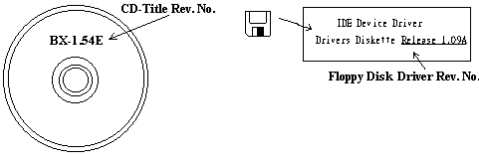
```
CONFIG.SYS:
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN
DOS=HIGH, UMB
FILES=40
BUFFERS=36
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFMG.SYS
LASTDRIVE=Z
```

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、“問題の説明”欄に詳しい説明を記入してください。

テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。

## 主な注意事項...

〔テクニカルサポート用紙〕に必要事項を記入する場合、次の注意事項を守ってください。

- 1\* **モデル名**：ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。  
例：KV7, KV7-V
- 2\* **マザーボードのモデル番号 (REV)**：マザーボードに [REV:\*.\*\*] と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。  
例：REV: 1.00
- 3\* **BIOS ID および部品番号**：オンスクリーンのメッセージをご覧ください。
4. **ドライババージョン**：デバイスドライバのディスク（もしあれば）に [Release \*.\*] などと記されているバージョン番号を記入します。  

- 5\* **OS/アプリケーション**：使用している OS およびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。  
例：MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT...
- 6\* **CPU**：CPU のメーカー名および速度 (MHz) を記入します。  
例：(A) [メーカー名] の欄には [Intel]、[仕様] の欄には [Pentium® 4 1.9GHz] と記入します。
7. **HDD**：HDD のメーカー名、仕様、☐IDE1 および ☐IDE2 のどちらで使用しているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、☐ をチェック (✓) してください。チェックがない場合は、☒IDE1 マスターとみなします。  
例：[HDD] の欄のボックスをチェックし、メーカー名には [Seagate]、仕様の欄には [ST31621A (1.6GB)] と記入します。
8. **CD-ROM ドライブ**：CD-ROM ドライブのメーカー名、仕様、☐IDE1 および ☐IDE2 のどちらで使用しているかを記入します。また、“☐” をチェック (✓) してください。チェックがない場合は、“☒IDE2”マスターとみなします。  
例：“CD-ROM ドライブ”の欄のボックスをチェックし、メーカー名には “Mitsumi”、仕様の欄には “FX-400D”と記入します。
9. **システムメモリ (DDR SDRAM)**：システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CAS レイテンシ、速度 (MHz) のような、仕様 (DDR DIMM) を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。  
密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度 (MHz): 200 MHz。  
お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。
10. **その他のカード**：問題に関係しているのが “絶対確実である” カードを記入します。  
問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。

**注意：** [\*] の項目は必ず記入してください。





## 付録 I. テクニカルサポートの受け方について

(ホームページ) <http://www.abit.com.tw>

(米国) <http://www.abit-usa.com>

(ヨーロッパ) <http://www.abit.nl>

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様へ直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがって、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行ってください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。** マニュアルの作成には万全の注を払って、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。
2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。** 弊社の Web サイトをご覧になり、バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、最新バージョンのドライバをインストールしてください。

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**  
弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。
4. **インターネットニュースグループをご利用ください。** ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ ([alt.comp.periphs.mainboard.abit](http://alt.comp.periphs.mainboard.abit)) はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

[alt.comp.periphs.mainboard.abit](http://alt.comp.periphs.mainboard.abit)

[alt.comp.periphs.mainboard](http://alt.comp.periphs.mainboard)

[comp.sys.ibm.pc.hardware.chips](http://comp.sys.ibm.pc.hardware.chips)

[alt.comp.hardware.overclocking](http://alt.comp.hardware.overclocking)

[alt.comp.hardware.homebuilt](http://alt.comp.hardware.homebuilt)

[alt.comp.hardware.pc-homebuilt](http://alt.comp.hardware.pc-homebuilt)

5. **リセラーへお問い合わせください。** 技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。
6. **ABIT へお問い合わせください。** ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様にサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

**北米、南米**

**ABIT Computer (U.S.A.) Corporation**

45531 Northport Loop West, Fremont CA, 94538,  
U.S.A.

電話: 1-510-623-0500

ファックス: 1-510-623-1092

営業: [sales@abit-usa.com](mailto:sales@abit-usa.com)

南米営業: [ventas@abit-usa.com](mailto:ventas@abit-usa.com)

マーケティング: [marketing@abit-usa.com](mailto:marketing@abit-usa.com)

ウェブサイト: <http://www.abit-usa.com>

**RMA センター**

46808 Lakeview Blvd. Fremont, CA 94538, U.S.A.

**英国、アイルランド**

**ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.**

Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage, Herts SG1  
4QX, UK

電話: 44-1438-228888

ファックス: 44-1438-226333

電子メール: [sales@abitcomputer.co.uk](mailto:sales@abitcomputer.co.uk)

ドイツ、ベネルクス (ベルギー、  
オランダ、ルクセンブルク)、  
フランス、イタリア、スペイン、  
ポルトガル、ギリシャ、デンマ  
ーク、ノルウェー、スウェーデ  
ン、フィンランド、スイス

**AMOR Computer B.V. (ABIT's European Office)**

Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG, Venlo,  
The Netherlands

電話: 31-77-3204428

ファックス: 31-77-3204420

営業: [sales@abit.nl](mailto:sales@abit.nl)

ウェブサイト: <http://www.abit.nl>

オーストリア、チェコ、ルーマ  
ニア、ブルガリア、スロバキア、  
クロアチア、ボスニア、セルビ  
ア、マケドニア

**Asguard Computer Ges.m.b.H**

Schmalbachstrasse 5, A-2201 Gerasdorf / Wien,  
Austria

電話: 43-1-7346709

ファックス: 43-1-7346713

電子メール: [asguard@asguard.at](mailto:asguard@asguard.at)

**上海**

**ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.**

電話: 86-21-6235-1829

ファックス: 86-21-6235-1832

ウェブサイト: <http://www.abit.com.cn>

**ロシア、CIS**

**ABIT Computer (Russia) Co. Ltd.**

営業: [sales@abit.ru](mailto:sales@abit.ru)

Info: [info@abit.ru](mailto:info@abit.ru)

ウェブサイト: <http://www.abit.ru>

---

<b>ポーランド</b>	<b>ABIT Computer (Poland) Co. Ltd.</b> Przedstawicielstwo w Polsce ul. Wita Stwosza 28, 50-149 Wrocław 電話: 48 71 780 78 65 / 66 ファックス: 48 71 372 30 87
--------------	--

---

<b>日本</b>	ウェブサイト: <a href="http://www.abit4u.jp">http://www.abit4u.jp</a>
-----------	---

---

<b>台湾本社</b> (上記以外の地域へのサービス 台湾は8+ GMT 時間で お客様の地域とは休日が異なる 可能性があります。)	<b>ABIT Computer Corporation</b> No. 323, Yang Guang St., Neihu, Taipei, 114, Taiwan 電話: 886-2-8751-8888 ファックス: 886-2-8751-3382 営業: <a href="mailto:sales@abit.com.tw">sales@abit.com.tw</a> マーケティング: <a href="mailto:market@abit.com.tw">market@abit.com.tw</a> ウェブサイト: <a href="http://www.abit.com.tw">http://www.abit.com.tw</a>
--	---

---

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。
8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその1つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。

ありがとうございました。

**ABIT Computer Corporation**

**<http://www.abit.com.tw>**